

経営情報学会 2016 年秋季全国研究発表大会

大会実行委員長 横田明紀
立命館大学経営学部

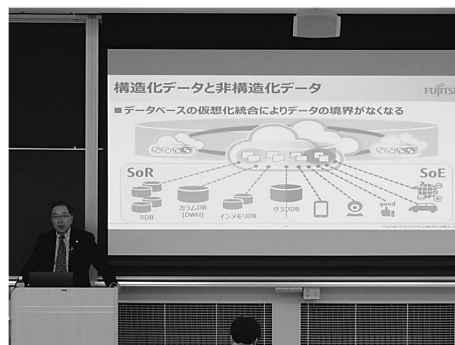
2016年9月15日(木)、16日(金)の両日において、経営情報学会2016年秋季全国研究発表大会が立命館大学大阪いばらきキャンパス(大阪府茨木市)で開催されました。会場となった大阪いばらきキャンパス(OIC)は2015年4月に開設したばかりで、大阪や京都の中心部からのアクセスもよく、本学においては地域や社会、あるいは産業界や行政機関等との社会連携のフロントラインおよび交流拠点として、まさにさまざまな取り組みが始まったばかりのチャレンジ精神に溢れるキャンパスです。新たな取り組みが進む大阪いばらきキャンパスにおいて、経営情報学会としては初めて9月に、かつ、平日での開催を試行することとなったチャレンジングな今次の大会を担当できたことをたいへん喜ばしく思っております。

1. 大会テーマと基調講演・特別講演

ICTの進化は留まることなく、昨今ではさまざまな領域でIoTの実装やAI(人工知能)の実用化が急速に広がりつつあるのと同時に、それらを駆使した次なる一手となりうる新たなビジネスおよびサービスが生み出されようとしています。こうしたことから本大会では『ICTが創り出す未来: Integration of Intelligence』を大会テーマとしました。

大会テーマとともに、基調講演では『ICTが描く未来』について佐相秀幸氏(株式会社富士通研究所代表取締役会長)より、富士通研究所および富士通グループで考えられている今後のICTの進展予想や、それにとまなう事業展開をお話いただきました。

また、特別講演では『ICTの発展により人工知能が生まれ自動運転の実現を加速する～日本の危機、自動車産業・その他産業構造へのインパクト～』について野辺継男氏(インテル株式会社事業開発&政策推進本部チーフ・アドバンストサービス・アー



基調講演 佐相秀幸氏



特別講演 野辺継男氏

キテクト兼ダイレクター/名古屋大学客員准教授)より、自動運転を例にしたICTの活用およびAIの実用についてお話いただきました。

2. ポスターセッション

前回、沖縄で開催された2015年秋季全国研究発表大会に続き、本大会でもポスターセッションの発表が31件と、たいへん多くの学生の皆様に発表をしていただきました。大会初日の午前10:00からの開催にもかかわらず、遠方より多くの方に参加いただき、各発表者による会場全体への3分間の発表後も、各ポスターの前には多くの方が集まり、熱心

な質疑応答が時間いっぱいまで行われ、たいへん盛況なセッションとなりました。

開会式・表彰式において、6つの発表に対し木嶋恭一会長より学生優秀発表賞が授与されました。



学生発表優秀賞（ポスターセッション）

3. 一般発表セッション・研究部会セッション・特設研究部会セッション・支部セッション

一般発表セッションでは17のセッションを設置し54件（内、3件は発表取消）の発表が行われました。また、一般発表セッション以外にも、研究部会セッションには「IT資産価値研究部会」「ICTと教育研究部会」「官の情報システム研究部会」「中小企業のIT経営研究部会」の4つの研究部会から10件、特設研究部会セッションには「人とITとの共創特設研究部会」から2件、支部セッションには「東海支部」から2件の発表申込があり、今大会では一般発表セッション以外にも多くのセッションを開催することができました。

4. 懇親会

大会初日の9月15日（木）17:30から、キャンパス内にあるイベントホールで懇親会が開催されました。開催校の立命館大学より肥塚浩 OIC 総合研究機構長の挨拶の後、多井剛関西支部長による乾杯の発声により、会は歓談へと進行了。懇親会の中盤、次期大会開催校である法政大学の岸真理子

先生より熱のこもった開催校紹介のプレゼンテーションが行われ、会場は大いに沸きました。懇親会にも81名と多くの方に参加をいただき、たいへん和やかな雰囲気の中、有意義な時間が過ぎ、最後に森田裕之関西支部副支部長より一本締めで閉宴となりました。



懇親会の様子

5. 学会賞講演

2014年度の論文賞となった『ビジネス・エコシステムの形成プロセス—エコシステム・エンジニアのためのフレームワーク』（Vol. 23 No. 4 March 2015, pp. 273–293）について、江口耕三氏（東京工業大学）より講演をいただきました。ビジネス・エコシステムを作り上げる「形成プロセス」や、そのプロセスにおいて中核的役割を担うエコシステム・エンジニアが活用することを目指したフレームワークの導出に関する内容を、ペット保険のパイオニアであるアニコム社の事例を踏まえながら詳しく説明いただきました。

以上のとおり、2日間にわたる大会は盛会のもと無事終了しました。今大会は過年度とは開催時期が変わったことで、発表件数や参加者数の大幅な減少を危惧していましたが、最終的に本大会での発表件数は99件（内、ポスター発表31件）、参加者数は188名、懇親会参加者は81名となり、過年度の大会とほぼ同規模となりました。関係各位のご尽力とご協力に心より感謝いたします。